



2025年
4月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 林 和 広

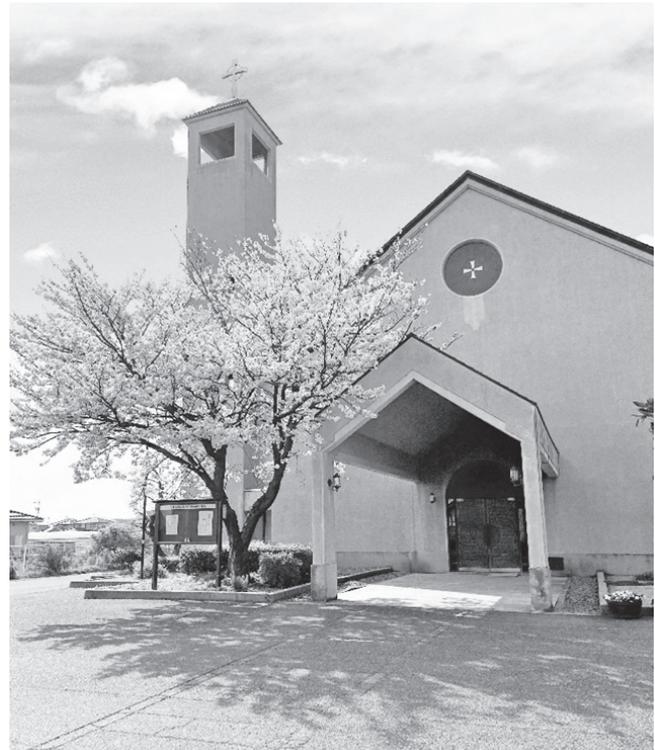
印刷所
文明堂印刷所

み言葉を思い出す

ミカエル 司祭 杉野 達也

私たちが現在過ごしている大齋節は、復活日に洗礼を受ける洗礼志願者となったつもりで、聖書のみ言葉を大切に、祈りと黙想、自分自身の信仰を見つめながら歩む季節です。

復活日の朝、婦人たちはイエスキリストの墓に行きました。空でした。彼女たちは、イエスキリストの遺体が盗まれたと感じ、絶望し、途方に暮れていました。そこへ「輝く衣を着た二人の人(天使)」が現れ語りかけます。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここに



違いありません。その時彼女たちは、イエスキリストは心の内に生きて働きかける存在であること、つまりは恵みや感謝、そして喜びや慰めを与える方であることを感じたのではないかと思います。

イエスキリストのみ言葉が存在するところにイエスキリストは居られ、イエスキリストとの出会いのみ言葉を通して実現します。「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことよって始まるのです。(ローマの信徒へ

の手紙10章17節)」とパウロは語っています。

私たちも、大齋節の間に信仰の原点に立ち返り、大切に聖書のみ言葉に耳を傾けること、祈ること、黙想すること、自分自身の信仰を振り返ることを通して、イエスキリストが自分に何を語りかけてくださったのか、どのように関わり、愛してくださいっているのかを思い出したいと思えます。その時、私たちが魂の内面で、いつも私たちが共にいてくださり、生かして立ち上がらせてくださり、生きて働いておられる神さま、イエスキリストと出会うことができるでしょう。

復活されたイエスキリストが私たちと共にいてくださり、共に歩んでくださることを覚えて、希望と喜びを持ってイエスキリストのご復活を共にお祝いしましょう。

(米子聖ニコラス教会司祭、
松江基督教会・広瀬基督教会、
境復活教会管理牧師)

2023年 日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ⑤
 2人々の声に耳を傾けよう(教会・地域・となりびと)
 「小さな声を大切にしよう…多様性を輝かせ、ともに生きる」

パトリシア 芝 雅子

「小さな声」とは、誰が発する声なのでしょうか。

神様の前では、私も、あなたも、子どもも、大人も、年齢・性別、地位や富、名譽にかかわらず、一人の小さき者であり、その発する声は「小さな声」と言えるでしょう。そうです。神様の御前では、私たちは皆、「小さな声」の主であり、神様は、どんなに「小さな声」にも、耳を傾けてくださいます。しかし、人と人はどうでしょう。自分の聞きたい声には耳を傾け、嫌なことや面倒なことには耳を塞ぎ、知らん顔をしがちである気がします。

自分の物差しで物事をはかり、自分の考えを相手に押し付けようとすると、人間とは横暴で自己中心的な生き物です。

年齢、性別、国籍、宗教、肌や瞳の色、話す言葉、住

む場所、考え方や嗜好、性格、ハンディキャップの有無など、十人十色。多様性の時代と言われますが、声高にそれを叫ばなければならないほど、多様性の受容されない社会がここにあります。ここ

は一体どこのことでしょうか。偏見に満ちたここは、学校に、会社に、家庭に、それから私たちの心の中にもあります。残念ながら、教会の中にもあると、私は感じています。悪口、無視、仲間外れ、誹謗中傷など悪意あるものから、無関心、他力本願など一見悪気がないように思えるようなものまで。私自身も、自分の努力不足は棚に上げ、不平不満は人一倍…気づけば、そんな信仰(教会)生活を送ってきました。「神様の御旨にかなう行いができますように」と祈りながら。

このような不完全な私を、

ありのままに受け入れ抱きしめてくださる神様の愛の深さははかり知れません。思いを同じくする人も、異なる考えをもつ人も、どちらも「となりびと」であり、違いを排除するのではなく、互いを知り、受け止め、神様が私たちを愛してくださるように、「となりびと」と、ともに生きる道があるはずで

す。「となりびと」は、時に、肯定的な助言を与えてくれます。その声に、言葉に、耳を傾けられる人でありたいものです。そして、私も不平不満や否定ではなく、愛ある声を「となりびと」に届けられる人になりたいです。

神様の愛が満ち溢れる教会で、一人ひとり異なる賜物をもつ「となりびと」として、ともに生きてゆけますように。

世界の聖公会の動向

司祭 ポール・トルハースト
 (管区事務所渉外主事)

ヨーク・ミンスター大聖堂屋上にソーラーパネルが新設され、電力の3分の1が供給される

1月9日、ヨーク・ミンスター大聖堂の屋根に設置された184枚のソーラーパネルが、ヨーク主席司祭による祝福式を経て初めて稼働された。

南側の聖歌隊の屋根に目立たないように設置されたパネルは、ミンスター大聖堂が必要とする電力の3分の1を供給するのに十分な7万キロワット時のエネルギーを発電する。これは、ミンスター大聖堂の敷地内で4番目に設置された太陽光発電設備であり、合計年間12万キロワット時のエネルギーを発電することになる。これは英国の平均的な大きさの住宅41軒に電力

を供給するのに十分な量だ。

このソーラーパネル設置は、2022年に採択された「近隣計画」の一環として、ミンスター全域で進められていく数多くのプロジェクトのひとつである。この計画は、21世紀の課題、特に気候変動による緊急事態への対応と、ヨーク・ミンスター大聖堂という800年もの歴史を持つ脆弱な建造物が抱える気候変動リスクに対処することを目的としている。

ヨーク・ミンスター大聖堂に関する事業の統括責任者であるアレックス・マッカーリオン氏は、次のとおり説明した。「気候変動によってもたらされる異常気象は、ヨーク・ミンスターの構造にとって最大の脅威です。これらのソーラーパネルは、私たちの脱炭

素化の旅における重要な前進を意味し、私たちの近隣計画の重要なプロジェクトです」

「COP29の閉会声明で国連事務総長は次のように述べ、気候の危機的状況に改めて警鐘を鳴らしました。『COP29は、記録的な気温に焼かれ、気候災害の傷跡が残り、排出量が引き続き増加している厳しい一年の終わりに開催された』と」

「私たちが採択した近隣計画は、私たちの建物を『ネット・ゼロ』(温室効果ガスの排出量と吸収量を差し引いて実質的にゼロにすること)にするために大胆な行動をとること、私たちの地区に野心的な変化をもたらしています。これらの再生可能なエネルギーシステムは、建物を断熱しエネルギー消費を削減するための改修と相まって、大きな一歩として祝福されるべきであり、ヨーク・ミンスター大聖堂ができるのであれば、誰もができるし、そうすべきだということを示しています」

ウエールズ聖公会による青少年宣教が復活の兆し

ウエールズ聖公会が資金を提供した革新的な教会プロジェクトは、青少年の宣教に驚異的な成長をもたらし、海岸沿いの3つの教区で160人以上の子どもたちが参加している。わずか1年前には、2人の子どもたちしか参加していなかった。

バンガー教区によるフェイス・アライブ・プロジェクト(The Faith Alive project)は、家族向けの礼拝と、子供や若者のための体験活動を組み合わせたものである。月1回のキッズ・クラブは地元のコミュニティ・センターで開かれ、聖書のお話、アートおよびクラフト、ゲーム、そしてボランテニアによるおいしいピクニック・ランチを提供している。

通常の活動に加え、このプロジェクトでは、初めて教会に足を踏み入れる人々も参加できるよう、季節ごとのイベントも実施している。これら

の活動には、海洋生物学者でもあるアンディ・ブロードベント牧師が指導する、神の創造物を探求するための夏の磯遊びセッションや、キリスト教の伝統に焦点を当てたハロウィーン・セレブレーション、クリスマス降誕ディスプレイやクラフト・ワークショップなどのインタラクティブなクリスマス・アクティビティなどが含まれる。

これら活動の影響は大きく、共同コミュニティの取り組みを通じて何百人もの人々が参加し、数組の新しい家族が定期的に礼拝に参加するようになった。

タンザニア聖公会首座主教、国連難民救済機関評議会に参加へ

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)による多宗教指導者会議のアングリカン・コミュニティオン代表に、タンザニア聖公会の首座主教であるマイムボ・ムンドルワ大主教が任命された。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)

は2020年、世界的なアドボカシー活動、紛争予防、和解、平和構築、社会的結束の取り組みにおいて、地域や信仰を超えた集団的な取り組みを強化するため、多宗教評議会を設立した。

多宗教評議会は、2023年の世界難民フォーラムでの誓約に推進力を与え、2027年の次回フォーラムに意見を提供するために構成された宗教的・精神的指導者のグループである。世界難民フォーラムは、UNHCRが4年ごとに開催する世界最大の国際難民会議である。

多宗教評議会のメンバーは、非人道的な状況や強制移住の現場において、紛争予防と和解、平和構築を目指す提唱者として顕著な役割を果たしたことを基準に選出された。

マイムボ・ムンドルワ大主教はタンザニアの大主教であり、人道支援活動のリーダーである。タンザニア政府と協力し、200人以上のエチオピア人を人身売買から救い出し、最近では、人身売買の危

険にさらされていた11人の少女の安全な帰還を確保した。国際的な活動としては、ブルンジへの避難民の安全な帰還や、暴力的な反乱が勃発しているモザンビークとタンザニアの国境の緊張緩和など、国境を越えた問題にも取り組んでいる。

今回の任命について、彼はこう述べた。「社会的に最も弱い立場にある人々の中には、難民や避難民が存在します。その多くは紛争や環境危機から逃れ、より良い機会を求めていますが、難民として新たなリスクや危険にさらされることも多いのです。宗教指導者が政府と協力してこの人道的危機に対処し、人々が安全でより希望に満ちた未来への道を見つけるのを助けることが不可欠です。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)による多宗教評議会での自分の役割を果たせるよう、全力を尽くすつもりです」

(神戸MtSチャプレン)

鳩だより 《敬称略》

祝洗礼

2月9日(日)

トマス 小瀧 衛
松江基督教会

ご逝去

1月20日(月)

ロイス 立木 恵美子
徳島インマヌエル教会

2月13日(木)

ルデヤ 村上 美智子
松山聖アンデレ教会

2月15日(土)

アイレネ 佐伯 啓子
広島復活教会

2月18日(火)

プリスキラ 田所 和子
高知聖パウロ教会



☆伝道教区について

2月16日(日)に「主教制と伝道教区」について、吉田雅人主教により聖職と信徒にオンラインで説明がありました。

また、24日(月・祝)の9時半から15時に、教役者及び信徒により「神戸教区の未来について考える集い」が神戸聖ミカエル教会及びZOOMでのハイブリッド形式で開催されました。

詳しい報告は後日、送られると思われます。各教会でも話し合っていたいただきたいと思います。

5月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2025年5月1日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 司祭 瀬山 会治
説教 司祭 瀬山 公一

どなたでもいらしてください

* 5月の記念逝去教役者

2日	司祭	覚前政蔵
5日	宣教師	ヴァイオレット ヘッ ド
6日	司祭	吉本要太郎
9日	司祭	ケン ピーター
10日	司祭	フランク ウェストン
14日	伝道師	マリヤ 松山初子
16日	司祭	パウロ 韓 浩一
19日	主教	パウロ 八代 欽一
22日	司祭	ペテロ 長澤 四郎
24日	司祭	ヨハネ 村上 豊吉
24日	司祭	パウロ 大塚 磐
26日	司祭	末好 萬吉
27日	司祭	バルナバ 阪村 達雄
28日	司祭	バルナバ 與賀田 千秋
29日	司祭	アーネスト ハッチンソン
30日	宣教師	メイブル バーグス
31日	司祭	サイモン ベインズ

* 逝去年月日不明の方々もお祈りします。



オンライン

西日本宣教協働区

祈りの
つどい

共に祈る・出会い・交わり

<開催>

月1回 30分間 (ZOOM利用)

<担当>

神戸・九州・沖縄各教区持ち回り

<参加> どなたもどうぞ!

専用の接続 URL があります。
<https://zoom.us/j/4681231279?pwd=aghCBLINGnhJs7LtAIZAfybgY11b1.1&omn=94321407109>

ID: 468 123 1279 パスコード: 762780

QRコードでも接続できます。

●ご注意!! 第15回以前のは無効です。

お問合せは各教区事務所まで。



《予定》
2025中期

●第24回
3月6日(木)
19:00~
(担) 沖縄教区

●第25回
4月10日(木)
19:00~
(担) 九州教区

●第26回
5月15日(木)
19:00~
(担) 神戸教区

●第27回
6月26日(木)
19:00~
(担) 沖縄教区

●第28回
7月17日(木)
19:00~
(担) 九州教区

あなたも
ぜひ
ご参加
ください